

はじめに

宮前区まちづくり協議会は区民の合意形成を図りながら、行政とのパートナーシップのもと、魅力あるまちづくりを目指しています。その活動の一環として、宮前区役所と協働し平成18年度に第1回フォトコンテストを開始しました。

このフォトコンテストの目的は、写真を通して宮前区の景観や、まちづくり活動、行事、お祭りなど「知ってほしい、わたしの好きな宮前区」を多くの皆様に見ていただき、再発見、再確認していただくことが大きなねらいです。また刻々と変化し続ける宮前区を写真で見ることで、自分の住む街の歴史を感じていただくことも目的の一つです。

このコンテストは撮影技術の優劣よりも、その場所を感じられる「風景」、人の取り組みが見える「活動」など、宮前区の魅力を発信できるかどうか、また写真への思いをお書きいただいたメッセージも審査の対象としてきました。審査委員の方々にはこの趣旨を理解していただき審査に御協力いただいております。

平成27年度で第10回目のフォトコンテストになりましたが、これを記念して、第1回から第10回までの入賞作品136点を掲載した入賞作品集（本誌）を発行するに至りました。

本誌の発行にあたり御協力いただいた宮前区文化協会・宮前区観光協会・公益財団法人川崎市公園緑地協会などの関係団体の方々、また、この10年間で素晴らしい作品を多数送っていただきました皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

※撮影された場所を探しやすいよう地図を掲載しましたので、これを機会に宮前区の魅力を改めて発見していただければ幸いです。

平成28年2月

宮前区まちづくり協議会フォトコンテスト委員会

目次

あいさつ	1
第1回入賞作品 （平成18年度）	2
第2回入賞作品 （平成19年度）	6
第3回入賞作品 （平成20年度）	10
第4回入賞作品 （平成21年度）	14
第5回入賞作品 （平成22年度）	18
第6回入賞作品 （平成23年度）	22
第7回入賞作品 （平成24年度）	26
第8回入賞作品 （平成25年度）	30
第9回入賞作品 （平成26年度）	34
第10回入賞作品 （平成27年度）	38
フォトコンテストの流れ	42
宮前区まちづくり協議会とは	43
撮影場所マップ	44

※各写真の撮影場所については、地図上に番号を載せてありますが、番号の位置はおおよその目安ですので、楽しみながら探してください。

※区内の名所・旧跡・散策情報は、区役所で発行しているガイドブックなどを御参照ください。
※開発などの為、10年の間に無くなってしまった風景も有りますので、御了承ください。
※掲載された写真・情報の無断複製・使用をお断りします。

あいさつ

第10回フォトコンテスト開催および10周年記念入賞作品集の刊行、真におめでとうございます。

写真は時代を記録するものであり、その時、その場所でしか撮れないものが、時の記録として残されます。この写真集には10年間の宮前の地域環境や人々の生活が集約されています。

宮前フォトコンテストのユニークな点は、一般の写真コンテストと異なり、その選考基準にあります。写真の撮影技術よりも、人や風景の中に、撮影者の心象がどの様に生かされているかといったことを対象とし、短いメッセージと共に評価することにあります。

入賞作品は、写真愛好家に限らず広範な人達に及び、選考にあたっては、地域に密着した視野から作品選考に臨む審査員によって、結果として撮影テクニックや表現力にも優れた作品が選考されました。

宮前独自のフォトコンテストを継続することによって、地域振興と写真文化の更なる飛躍を期待します。

公益社団法人日本写真家協会専務理事 山口 勝廣
（第3回～第10回フォトコンテスト審査委員長）

宮前区もどこの街も生きていて魅力いっぱい。宮前区で10年前に始まったコンテストの作品群を見ていると街の魅力が、作者の熱い気持ちが、伝わってくる。

気持ちを伝える表現手段として手っ取り早い写真は「鑑賞の価値」という面と「記録の価値」という面を持っている。「美しい風景だな、かわいい子どもだな」と感じる作品は同時にその時代をも記録している。

このコンテストが始まった頃に寄せられた宮前区の広がった畑の風景は今も同じなのか、それとも新たにマンションが作られているのか。風景は異なっているてもその時を記録した作品だ。多くの写真愛好家による作品群は10年というスパンで街の様子と人びとの暮らしぶりをしっかり記録している、写真による地域史だ。

名所旧跡をたずねる傑作づくりではなくスマホ、タブレット、カメラはなんでもいい、足元の生活感あふれる美しい風景や人びとを生き生きと写しとめた作品がこれからも寄せられることを期待する。

公益社団法人日本写真家協会会員 小池 汪
（第1回～第2回フォトコンテスト審査委員長）

宮前区まちづくり協議会と宮前区役所の主催で、平成18年度から継続してきたフォトコンテストが、今年度で10回目を迎えました。区民主体のまちづくり協議会と行政が協働して、育ててきたコンテストです。

第4回目からは、区長も審査委員に加えていただき、第8回目には「ふるさとみやまえ賞」も新設されました。これまで多くの作品を拝見させていただきましたが、応募作品のいずれもが、見る者に大きな感動を届けてくれました。作品には宮前区の魅力があふれており、撮影した方の地域への愛着や、そこに在るもの・生きるものへの深い愛情が写り込んでいるように感じるからでしょうか。10周年を機に一冊の作品集となり、多くの区民の皆様にご覧いただけることは、大きな喜びでございます。

これまで、フォトコンテストの審査や運営に御尽力くださいました写真家の先生方やまちづくり協議会の皆様に心から感謝申し上げますとともに、日頃の活動により宮前区の美しい景観をつくってこられた団体や区民の皆様、そして宮前区の魅力に目を留めて、作品として応募して下さった全ての方々に厚く御礼を申し上げます。

宮前区長 野本 紀子

① インフォメーション





審査委員長特別賞

秋の富士見坂 (宮前平駅前高台がわ) H18.11 立石 誠治

宮前平駅前の高台から、富士見坂の並木に、バスが通り、前方には東急田園都市線の陸橋があり、急行電車が10両編成で走っており、緑が多い美しい街です。



優秀賞

満開の演技 (宮崎台駅前) H18.4

落合 清治

人も桜も満開の中で大道芸。田園都市線宮崎台恒例の桜祭りの一コマ。駅前が歩行者天国に成り、大勢の人達が集まり、一日中楽しめます。



優秀賞

ひと休み (宮前平第2公園) H18.10

小川 充子

良いお天気の日、公園でどんぐり拾いをした。緑の木々がきれい。木陰は涼しいのでちょっとひと休み。もう少しするといちょうが色つき、けやきが紅葉する。ほっとする公園です。



優秀賞

雪の等覚院 (等覚院) H18.1

近藤 守宏

春は、つつじて賑わいをみせる等覚院。雪の日は、人の気配も無く静かなたたずまいをみせていた。



優秀賞

富士山に見える場所 (平より初山方面を望む) H18.11

種村 忠夫

強い風の吹いた翌朝、カメラを持って来て見ると頭で描いたイメージ通り、雲ひとつない青空に、丹沢の山越しに新雪の富士山。ここ数年、富士山に見える回数が、増えているような気がするのですが。



優秀賞

夕日があたる改修中の団地

(宮前平1丁目 公務員住宅南側) H15.10

大井 徹

区内にはたくさんの集合住宅があります。それらは定期的に改修され、すっぽりと布に被われてしまう時があります。その時に何か本質的なものが顕現される様に感じるのは私だけでしょうか。



優秀賞

雑木林のたからもの

(南野川ふれあいの森) H18.11

小林 菊代

雑木林の楽しみは、さまざまな生き物との出会い、思わぬ発見。雑木林に咲く楚々としたホトトギス…この風景をこの場所で未来の宮前人にも見て欲しい。





優秀賞

めじろ (宮前平グリーンハイツ26号棟庭) H18.11
渡辺 邦光

今年も又、多くの野鳥が飛来してくる頃となった。何時までも皆んなでこの自然環境を守って行って、野鳥の楽園にしていけたらと思う。



優秀賞

はじめての秋 (鷺沼公園) H17.11
鈴木 正人

秋色に染まる鷺沼公園で初めての紅葉狩り。澄んだ空気と落ち葉が敷き詰められた公園はうたた寝には最高のようです。



優秀賞

秋の装い (東高根森林公園) H14.11
近藤 裕

公園入り口のパークセンター、普段はなにげなく通り過ぎるところですが、紅葉の季節になると綺麗に着飾って、眼を楽しませてくれます。



優秀賞

ハイ、チーズ (等覚院) H18.4
村田 金次朗

つつじ寺で有名な神木の等覚院。小さな子供が自信有り気カメラをかまえ、両親を撮っている姿がほほえましかった。



優秀賞

我が街けやき通りの秋
(けやき平／グリーンハイツけやき通り) H18.11
斉藤 正夫

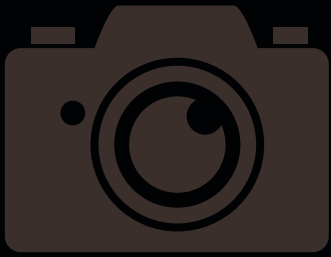
斜光に輝く秋がありました。毎日の様に通りなれてるのに「はっ」とする瞬間がありました。



優秀賞

虹の橋 (宮崎5丁目) H17.11
湊 純子

カメラを持って2、3時間シャッターチャンス待ちました。自転車に乗った2人の少年が坂を上って来ました。



コラム

2006年(平成18年)4月13日(木)私は市民館ギャラリーの使用抽選会でくじを引いていました。

まちづくり協議会のフォトコンテストも企画段階だったので、他の一般団体と同様に申込み、まあ落選したらまた考えればいいや、と気楽な気持ちでくじを引き、運よく当選しました。

展示期間は当選順で決めるのですが、一般団体が敬遠する12月22日からの1週間にしました。

それがこのフォトコンテストの始めの一步です。翌年からは行政の優先枠でギャラリーが確保できるようになりました。

宮前区まちづくり協議会
藤田 信吾



審査委員長特別賞

川は自分達の手できれいに (初山2) H19.7 丸山 幸一

毎年恒例になっている平瀬川七タサミットのひとコマです。右側から流れ落ちている水は、武蔵野南線地下から汲み上げているとってもきれいな湧水です。この水を何とか活用できるようにしたいですね。

14

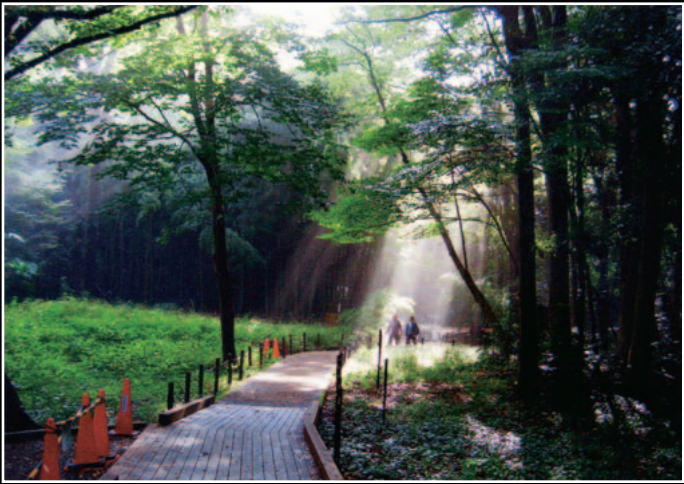


優秀賞

陽のあたる長坂下 (長坂下) H19.12 川上 幸彦

太陽のあたる暖かな長坂下を撮りました。普段から手入れをされている長坂下フラワー通りの花は、冬でも暖かな印象を与えていて、冬とは思えない風景。

15



優秀賞

朝もやの森林公園 (東高根森林公園) H19.10 井原 義文

鳥の声を聞きながらの散歩。この地域には野鳥が50種類以上いるそうです。朝モヤの中、2人の人物は森林浴と光のシャワーとたっぷり楽しんでいました。

16



優秀賞

君はこんな所から飛び立ったの? (南野川ふれあいの森) H19.9 高木 圭

蝉時雨の森を散歩。野草花を眺めていたら、ヤブランの花に遺した蝉の抜け殻を見つけました。「君はこんな低い所から飛び立ったの?」そっと応援したくなりました。

18



優秀賞

ある夏の夜 (有馬中央公園) H16.7 鈴木 正人

転勤で引っ越したばかりの近所を散策していると、暗闇に光るおびただしい数の提灯。カメラを自宅に取りに帰って撮影した一枚です。

17



優秀賞

山寺 (等覚院) H18.1 高橋 敏男

深々と降る雪の山門の前に立つと、人里離れた山奥の寺にしているような錯覚を覚える。春に見たあでやかな風情と対極な表情を見せるのも面白い。

19



優秀賞

みやまえ太鼓 (区役所広場) H19.8

立石 誠治

かがりびを手前に、彩どりつなく太鼓の饗宴、夕景の見事な撮ざばきを写してみました。

20



優秀賞

柚と蔵のある風景 (稗原) H19.12

永井 幸

この前をバスで通るたびに気になっていた風景です。たわわになった柚の大木と、やわらかな色合いの蔵がいい感じです。なにかとても懐かしい思いがして落ち着きます。

21



優秀賞

若い力 (宮崎台小学校) H19.5

長野 泰明

大きな歓声が聞こえてくる小学校の運動会。宮前区は盛んに進む宅地開発と新築ブームが続き、人口増加が著しい。未来を担う小学生も増えて、若い力を発揮する。

22



優秀賞

ドッコイ残っている生産緑地 (神木2) H19.10

長野 泰明

年々迫りくる宅地開発の中で、地元生産の野菜づくり…今はキャベツが育ち、収穫が待たれ、次に小松菜の種まきする畑を耕し、畝がつくられている。減農業を目指し、コンフェリーVを使う実証栽培がされている。

23



観光協会賞

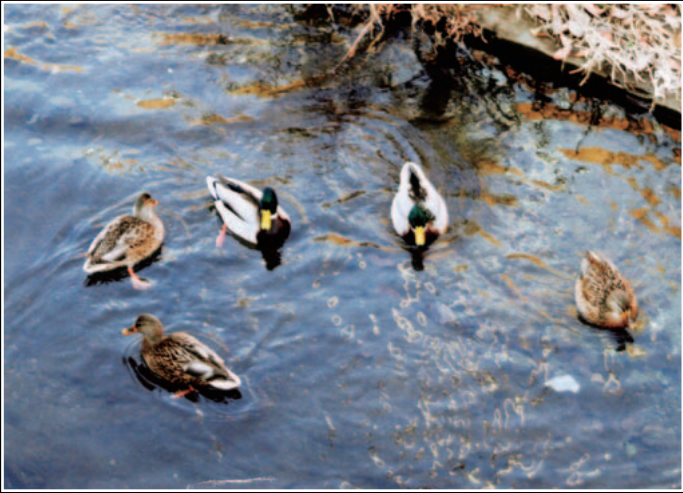
我が町の春

(土橋7丁目公園横の道路より) H19.4

中村 米蔵

公園へ桜を見に行きました。枝の間より富士山が見えとても春らしい風景に出会えた。朝富士山を見るとその日一日得をした気分になるのは私だけだろうか…?

24



優秀賞

平瀬川・鴨の群れ (平瀬川東橋) H19.12

渡辺 邦光

平瀬川には年々鴨の姿が多く見られる。みんなと協力しもっと美しい流れにし多くの鴨や鯉が見られ人が集り賑いの川にしたい。水辺に遊歩道など出来たらと思う。

25

コラム

宮前区は、新しく引っ越してこられる方が多い区です。そのため、伝統行事など地域の生い立ちがわかるイベントや、現在の市民活動団体の活動の様子など、地域の景観や生活文化が感じられるこのコンテストは、大勢の方が地域を知るきっかけになっているのではと思います。この点が、10年間好評をいただいている理由なのでは…

地域の生活環境が下地となり、それが文化となっていきます。これからも、区の交流のため、続いてほしいと思います。

宮前区観光協会会長
川島 芳茂



審査委員長特別賞

ここはこのままでいられるでしょうか? (野川神明社隣地) H20.3 丸山 幸一

第3京浜沿いを車で移動中、ピンクの花の色に引かれてファインダーを見たら、この新旧の対象に魅かれました。

26



観光協会会長賞

パレード (宮崎台駅前) H20.4

那須 和子

桜花の咲く頃、宮崎台駅前に仮の舞台を作り色々な催し、其の側には桜並木の坂道をパレードする人、そして見物人、正に桜祭りとはこのことでしょう。

27



優秀賞

ポンプと遊ぶ (平瀬川上流) H20.10

菊池 順子

秋晴れの日、孫二人と平瀬川そばにあるポンプを目ざして出かける。川のほとりは蔵敷あたりからコスモスでいっぱいである。花にうずもれて探しあてたポンプで二人の子は大喜びで遊んだ。ポンプの上部のフタがはずれたのか、口から水は出ずに上部から水が出るのに、また嬉しそうに水を出しては遊んだ。私にはなつかしいところである。

28



優秀賞

私の住む町 (有馬5丁目) H20.8

吉田 晴彦

25年前、都内から引越して来た頃、この辺りは空き地も多く、養豚場もあるような町だった。それが今ではぎっしりと家も立ちならび車も渋滞する町となったが、私はこの町が好きだ。来年は88才、終の棲家と云ったところか。

29



優秀賞

孫の数だけ…元気に舞って! (梶ヶ谷) H20.4

高木 圭

子供の日が近づき、この家の主は例年通り畑に孫の数だけ鯉のぼりをあげました。農作業の合間、庭先で一服しながら「孫達、最近は寄り付かなくなってね」寂しく笑う翁の声が耳に残りました。この畑もいつまで残るのだろう?ともあれ若鯉たちよ、皆元気に舞って!

30



優秀賞

ワーかわいい!!てお花のこと?それともわたし?

(きせつのかみちグリーンガーデン) H20.6

細谷 利雄

春の花植イベントで大勢の参加者の中、花をつむ真剣な姿におもわずシャッターを押しました。

31



優秀賞

春爛漫のナイスヒット

(日本精工健保組合グラウンド) H20.4

武本 宏一

日曜日のグラウンド。頼むよ、ナイスヒット!と念ずる私の期待に応えて、バットは見事快音を発してくれました。見守る八重桜からも、満面の笑みが…。

32

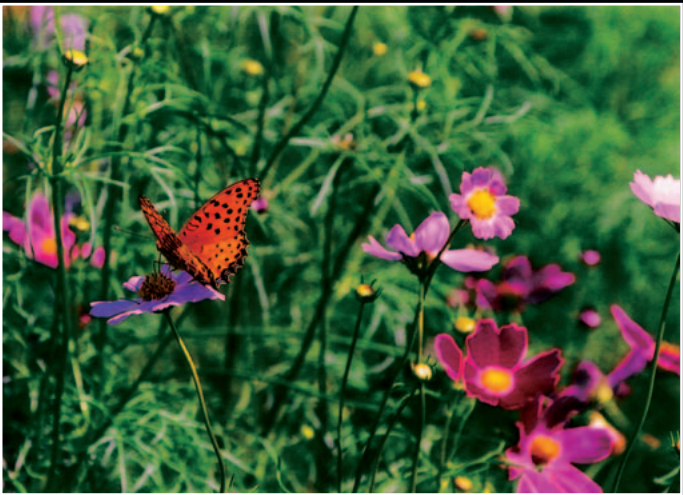


優秀賞

33

お手伝い (神木本町) H20.6
名取 慎吾

東高根森林公園に散歩に行く途中、丁度 孫(10歳)と同じ位の少女がヨイショ ヨイショ大きなゴミ袋に引きずられるようにして運んでいました。その姿に感動し後ろからパチリ、ワンショット。



優秀賞

35

蝶舞うコスモスの丘 (野川神明社近辺) H20.9
高木 登夫

久し振りの好天に誘われ、初秋の風を感じながら野川コスモス畑に足を運びました。色とりどり、見事な競演に目を奪われていましたら、直ぐ近くの花弁に一匹の美しい蝶が舞い降りました。メルヘンの世界がそこに!



優秀賞

34

里山の焚き火 (水沢の森) H20.9
島田 邦彦

「水沢森人(もりんど)の会」主催の栗ひろいの会に行った時のこと。多くの子供たちが、焚火で焼いた栗を美味しそうに食べていました。こんな楽しい集まりができるのも、里山があるから…。少なくなった里山をこれからも大切にしていきたいですね。



優秀賞

36

夕映え (宮前美しの森公園) H20.11
千葉 修一

大きなけやきの木に夕陽が赤く映えて紅葉する前の葉が、そよ風にゆれていました。大木の力を感じるよう根元からアップでねらいました。

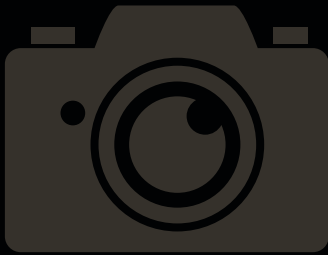


優秀賞

37

平瀬川の桜 (緑地バス停付近) H20.4
中村 米蔵

花びらが川面に落ち連なって、花筏(はないかた)日本には粹な言葉がのこっています。
「散る花の いかだに乗って 川下り」



文化協会会長賞

38

語らい (神木公園) H20.11
千葉 修一

新神木シニア会の方々が、ふれあいまつりの中で、ゆったりと語り合っている姿が印象的でした。

コラム

宮前区の歴史を受け継ぐフォトコンテスト

宮前区の各地区には歴史があり、土橋では江戸中期から“御嶽信仰”が盛んであった等、江戸時代以前から続く永い歴史の地に宮前区があり、この歴史を受け継ぐフォトコンテスト実行委員会は宮前区にとって重要な存在と思います。

この作品集には十年という流れの中で数々の歴史をよみがえさせる作品もあり、次代に宮前を知る作品と共に歴史は続きます。

これからも宮前区のどこかにある“宝物”をフォトコンテストによって探し出して戴きたいと思います。

十年間フォトコンテストを支えて下さった多くの参加者の方々に感謝致します。

宮前区文化協会会長
鈴木 和子